

桜木中だより



桐生市立桜木中学校

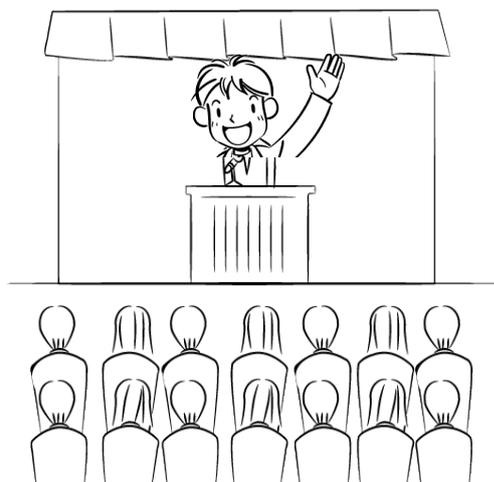
令和7年6月23日(月)

R7-3号 <文責> 山藤 一也

校内弁論大会

6月6日(金)の5、6校時に校内弁論大会が行われました。桜木中学校では、日常生活の中から身近な話題を取り上げて、自分の考えをまとめて発表する力を養うことや、人前でわかりやすくしっかりと発表できる態度を育てるとともに、人の発表をきちんと聞く態度を育てるために毎年実施しています。

今年度は、各クラスの代表10名の弁士みなさんが、素晴らしい発表をしてくれたので、その一部を発表順に紹介させていただきます。



<1年1組 「失敗は恥ずかしいことではない」>

人生を道に例えるなら、成功は一本道。成功しているだけだと一本道しか進めません。しかし、失敗という別の道を進むことで多くの経験をすることができるのです。失敗の中にさらなる成功への道がかくされている可能性があるかもしれません。

<1年3組 「余計な一言」>

なるべく余計な一言を言わないことを意識して、相手の立場に立って言葉を選ぶこと。相手を傷つける言葉ではなく、嬉しくなる一言を付けたす。それが大事なこと。余計な一言、自分も思い当たるといふ人はその一言を嬉しくなる一言に変えていきましょう。

<1年2組 「友情から生まれた思いやり」>

私は自分の気持ちに寄り添ってくれることが「思いやり」であること、「不安」なときにいつも「思いやり」の心を持って励ましてくれる人こそが「友達」だと改めて気づかれました。だから私は、友達に心から感謝して、自分も思いやりの心を持つ人でありたいと思いました。

<2年2組 「偏見」>

みなさんは、偏見をもたずに生きていけますか。私はできる限り偏見をもたないようにしてほしいと思います。また、SNSを使うときは客観的に意見を聞くようにすると思います。結論、客観的にものを見よう。

<3年1組 「命のバトン」>

命のバトン。それは見えないけど、確かに存在するものです。献血により命が繋がりその輪が広がっていけば、そこに幸せのリレーが生まれます。大切な人を思う気持ちは誰にでもあります。私は将来その思いを「行動」に変え、命のバトンを渡せるリレーの走者になりたいと思います。

裏面続く

< 2年3組 「AI と人の温かみ」 >

感情というのは、上っ面だけでなく、心の奥底にあり、誰にも再現できないすばらしいものだと思います。また喜怒哀楽があつてこそ人間。ロボットのように冷たいのではなく、人は温かみがあり、比べものになりません。これこそ人のよさだと思います。

< 3年2組 「人の中へ」 >

直接人と会って話すことは、スマホで話すことでは得られないメリットがあります。直接人と話すことは、対面での会話が減ってきている今、勇気のいることかもしれません。しかし、一歩踏み出すことで人のぬくもりが感じられ、人間関係を築くきっかけになるはずです。

< 2年1組 「正解のない生き方」 >

この弁論を通して、人にはいろいろな事情や夢があり、それぞれの人がさまざまな思いを抱いて生きていることを学びました。だから、私はこれからもっとたくさんのことを学び、自分の思いや夢にしっかりと目を向け、自分の夢や目標を叶えたいと思いました。そして正解のない生き方をみんなに知ってもらいたい。

< 3年1組 「スマホの使い方を考えよう」 >

我が家ではスマホと上手に付き合うためのルールを決めている。それは自分の部屋に持っていないことだ。これは睡眠の質が向上して翌日にも良い影響がある。それに加えてリビングに居る時間が増え、家族とコミュニケーションもより多く取れる。

< 3年2組 「案外根性論」 >

僕にもできるかもしれない。そう思って僕は英語を真面目に勉強するようになった。スマホのアプリで毎日勉強したり、どんだけ席が後ろでも英語の授業では発言したりするようにした。だから絵も英語もモチベーションが上がっていつしか本当に好きになっていた。マイナスな感情を好きだっていう気持ちが打ち消した。

10名の代表の弁論内容は、どれも心に響く内容でした。クラス代表として発表できなかった人も含めて、今回の弁論に込めた思いを行動に移し、自分自身や仲間の成長につなげてほしいと思います。

「ルールについて一緒に考えましょう」

18日(水)の全校集会では、「ルールとは、何のためにあると思うか」や「家の中、クラス、部活、学校などであるといいなと思うルール」、「こんなルール(スマホ全面禁止など)をどう思うか」について、具体的に考えてもらいました。

法務省の資料に、「ルールとは、人々の社会生活を円滑にするための手段」という表現があります。今あるルールは、これまでの経験からみんなが安心して生活できるように決められてきたものだと思います。その意義をしっかりと考えながら生活すると、もっと桜木中学校での笑顔が増えると思います。

ご家庭でも、家族が笑顔になるルールについてお話する機会など作っていただければ幸いです。